

学会記事

第6回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期総会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の総会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第6回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。両名の方々には第223回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号（6月25日発行予定）に掲載いたします。

（大学関係者）



受賞者氏名：^{しんかとしかつ}新家利一
生年月日：昭和43年3月3日
出身大学：東北大学医学部
所属：徳島大学医学部公衆衛生学教室

研究内容：Y染色体の遺伝的多様性に関する研究、性分化異常症に関する分子遺伝学的研究、DHPLCを用いた男女識別に関する研究

受賞にあたり：

このたびは名誉ある賞を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。私は平成10年4月より徳島大学医学部公衆衛生学教室にてお世話になっております。今回の徳島医学会ではDHPLC法を用いた研究成果の一部を紹介させていただきました。

公衆衛生イコール疫学というイメージをもたれる方が多いと思いますが、公衆衛生学はとても幅の広い分野です。個人的には公衆衛生学は医学と社会との接点の学問だと思っております。公衆衛生学には臨床医学や基礎医学の経験が大変重要だと思っておりますし、実際に大変役に立っております。特に私たちの教室では、基礎医学的研

究（特に遺伝学的研究）と公衆衛生学の両立が求められており、ハードですが充実した内容となっていると思います。ヒトゲノムプロジェクトによってヒトゲノムの全塩基配列が決定されようとしており、次の時代は遺伝的多様性の研究の時代となりつつあります。ヒトの疾病の要因を考える上で環境要因（広い意味での生活習慣も含む）と遺伝的要因は車の両輪のようなものです。遺伝学的方法と公衆衛生学的方法を組み合わせることで広く社会に貢献できるような医学を目指したいと考えております。私たちの研究室では遺伝医学、公衆衛生学に興味のある方々をお待ちしております。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

（医師会関係者）



受賞者氏名：^{まちだ よしや}町田佳也
生年月日：昭和38年5月19日
出身校：ELSTA九州（救急救命九州研修所）
所属：阿南消防組合消防本部救急隊

研究内容：外傷現場の観察処置PTCJの紹介と搬送症例について

受賞にあたり：

この度、第6回徳島医学会賞に選出していただき、選考委員の先生方をはじめ関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

私は、平成11年から救急救命士として救急業務に従事しております。

現在、徳島県の救急出動において鈍的重傷外傷の発生しうる比率は全国平均を上回り、外傷初療の強化が求められておりました。そこで、昨年の外傷セミナーで発表された「外傷現場の観察処置PTCJ：Prehospital Trauma Care Japan」の紹介とPTCJを救急現場に導入した搬送症例について発表させていただきました。

今回の受賞を励みとして、今後もPTCJの訓練や普及活動を続けていこうと思っております。

最後になりましたが、この発表をご支援いただきました阿北消防篠原救命士、板野東部消防増原救命士をはじめ各救急隊の皆様、また徳島県立中央病院救急救命センターの三村誠二先生はじめ諸先生方に深く感謝いたします。